

これまでに無い画期的染色技法が確立
アンティーク調加色ムラ染め素材
『サーフビンテージTM (Surf Vintage)』
の開発と展開について

小松精練株式会社（本社：石川県能美市 社長：蓮本英信）は、世界に冠たる先端フアブリックメーカーを目指し、これまで驚きと感動ある素材開発を進めてまいりましたが、このほど、合繊でありながらナチュラルなムラ感やアンティーク調のウォッシュ感を表現可能とする画期的な染色技法を開発し、『サーフビンテージTM』の素材ブランドで、2010年9月より欧州発信で本格的に販売を開始いたします。

『サーフビンテージ』開発経緯

小松精練はこれまで自社のもつ高次後加工技術と匠の知恵を結集させ、市場が求める斬新な合繊素材の開発を行ってきました。中でも、弊社が積極的に取り組んでいる分野の一つである「製品染め」においては、これまでの製品洗い（ウォッシュ加工）は、顔料タイプのもものが多く、①堅牢性が悪い（特に摩擦や洗濯による色落ちがしやすい）②洗い加工によって生地にダメージを与えるため、薄い素材や落ち感のあるドレッシーな素材で加工出来ない、といった問題点があり、アイテムやデザインを広げることができないという市場の声がありました。そこで当社では、生地にダメージを与え難く、且つ色落ちし難い（堅牢性の良い）、新しい製品染めの染色技法の開発に取り組みました。

特に染色技法については、逆転の発想から、従来の後から色を洗い落とす製品洗いの手法ではなく、徐々に染料を加えながらナチュラルなウォッシュ感の表現を可能とする「加色染色技術」を独自に確立させました。

この新しい「加色染色技術」によって製品染めされた商品は、昨年末からの水面下での販売促進活動において、海外のバイヤーをはじめとして多くの方々より高く評価され、更には「このウォッシュ感を是非、テキスタイルで表現して欲しい」という強い要望を受けていました。そこで、この「加色染色技術」を原反にも応用させるため、独自マシンの開発に取り組みました。およそ6ヶ月の開発期間を経て、新たに独自設計した「特殊ウェーブ式吹子（ふいご）装置」と独自開発した薬剤とその処方により、テキスタイルでの「加色染色」に成功し、安定的にナチュラルなウォッシュ調の表情を表現可能となり、2010年9月より、「サーフビンテージ」のブランドで欧州より本格販売を開始いたします。

■ 『サーフビンテージ』の技術特長

- 1) 当社が長年培ってきた合繊に対する高度な技術を応用し、独自設計した「特殊ウェーブ式吹子（ふいご）装置」により、染色時に空気を含む水流を自在に起こさせ、且つ独自開発した薬剤とその処方により、従来では不可能であったより自然なウォッシュ感・色褪せ感を表現しています。
- 2) 「加色染色技術」は染色時に糸にダメージを与え難いため、素材本来の風合いを損ねることは殆どありません。
- 3) 顔料タイプの製品洗い（ウォッシュ加工）に比べ堅牢性が良く色落ちし難いです。

【摩擦堅牢度】 従来の顔料タイプ製品洗いとの比較

	サーフビンテージ(PET)		サーフビンテージ(Ny)		顔料タイプ製品洗い	
	濃色	淡色	濃色	淡色	濃色	淡色
乾摩擦堅牢度(級)	4-5	4-5	4-5	4-5	1-2	2
湿摩擦堅牢度(級)	4-5	4-5	4-5	4-5	1-2	2

- 4) あらゆる合繊素材および複合素材に対して加工が可能です。
- 5) 布帛、ニット問わず加工が可能です。
- 6) 「加色染色技術」を応用することで、複数色を用いたウォッシュ感・色褪せ感の表現も可能です。

■ 『サーフビンテージ』の商品特長

- 1) テキスタイルでナチュラルなムラ感やアンティーク調のウォッシュ感の表情があります。
- 2) 製品染めの場合、縫製部分や生地を重ねる部分に、色落しではない加色により、従来にないナチュラルなウォッシュ感の表現が可能です。
- 3) 原反加工では当社の持つあらゆる高次後加工技術との組み合わせが可能です。

■ 『サーフビンテージ』の用途展開

- ・ ファッション衣料
- ・ スポーツ衣料

『サーフビンテージ』の販売計画

テキスタイルの場合

初年度	30万m	2.0億円
3年後	100万m	5.5億円

『サーフビンテージ』に関するお問合せ

小松精練株式会社 広報課

TEL : 0761-55-8070

『サーフビンテージ』製品染めタイプ 製品写真



『サーフビンテージ』 テキスタイルタイプ 生地写真

